
神を信じたモノ達の先には・・・

S I E S U T A

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神を信じたモノ達の先には・・・

【Nコード】

N9706T

【作者名】

SIESUTA

【あらすじ】

世界の淵でたくさんのモノ達がそれぞれの思いを抱えている・・・。
支配するモノ。支配されるモノ。
今宵もまた、神の目に映る・・・。
さまざまなストーリー。
繰り返される悲劇がー・・・。

ゝ予告編ゝ

はじめて投稿しますので、何を書くのかさえわからない状態ですが・
・・。

私はシエスタと申します。

本当は、S I E S U T Aと書きます。

頭の中で、温めていたお話なので・・・あいまいな部分もあるかもしれないませんが、

実は私は12歳なんですよね・・・><

こんな、どうしようもないやつですが・・・仲良くしてやってくださいね!。

好きなものはB L・G L・N L・・・です♪

好きな小説は「悪ノ娘ゝ黄のクロアテュール」

好きな作家は、桜庭一樹・東野圭吾・悪ノPです
。。。

どうか、ヨロシクお願いします!!。

序章　く赤い月と偉大な少女く

何もない。ただの異空間　こちらから見えるのは赤い月だけ・・・
うふふつ。誰かって？

私はこの世界を造ったのよ

・・・そうね。私を神とか、天の使いという人もいるかもしれない
わね・・・

でも私はそんなのじゃない

とても、あいまいな存在なのよ

・・・。

私はここから出たことが無いの・・・一回も・・・

私は退屈。だけど一個だけ・・・

私の興味をそそるものがあるのよ？

なにかって？

それは、この鏡

私はいろいろな宝石や秘宝をもっているけれど・・・

この、「レヴィアタンの手鏡」に勝るモノはないわ・・・元々は、

深い深い深海に沈んでいたのよ　とても神々しいの・・・金細工は

真珠のように輝いていて・・・

でも、それだけじゃない・・・この鏡はね、特別な

うふふつ、何が特別なんだって？

・・・この鏡はね　覗くと、世界の様子が映るの・・・

ここからは　赤い月しか見えない・・・だけど、この鏡さえあれば・

・・・なんでも見れる

・・・

常識の範囲内だね・・・

ああ・・・！！

また見れるわ・・・

楽しみね？これからどうなるか・・・

さあ！！物語は幕を開けたわ・・・！

どんなストーリーなのかしら？

うふふっ

やはり、この鏡には興味をそそられるわね
――――・・・

？

第一の犠牲者　く凍えるココロく

キイイイイーン!!

いきよいよく剣が飛んだ。

「っああ!!。前回優勝者「ロー・ガル」選手　敗れましたっ!。」

そう。これは戦い。

「賞品はナゾの女剣士に渡されますっ!!。」

こんな　馬鹿馬鹿しい戦い　なぜあるのだ?。いずれにしても、結果は見えていたんだがな。

民衆どもは、こう思っているのだろう。

「なぜ女が勝った?」　「男に勝てるはずがない!?」

おかしい　おかしいのだ!

どうして、奴隷が賞品なのだ?。私たちと変わらないぐらいの子供達だというのに・・・

5

「この中からお選びください。賞品はこの中から2つ、選べます。」

おかしい　おかしい・・・!?

「ああ・・・わかった・・・。」

・・・皆、怯えている。可哀想に。

「この中で怪我をしているモノはいない?ボク。」

私は近くの子供に　話しかけた。

「・・・おねーちゃんは、神の使い魔^{アーミユ}でしょ?」

「そう、私はあなたたちに危害を加えたりしないわ。大丈夫。」

こもっていた老婆がふらふらと出てきた。

「そこにいる、男の子が怪我をしているよ・・・。」

「そうですか。ありがとうございます。」

私は言われたところに行った。倒れていたのは15〜18歳の少年だった。金髪にブルーの瞳が印象的な気の強そうな男の子だった。

「・・・近づくなっ！。ボクは同情されるのが大っ嫌いだ！！。」

「噛みつくように彼は言った。」

「ちがう・・・ちがうよそれは。」同情なんかじゃない。これはただの自己満足。

私は彼を抱きしめた。・・・背はいつしよぐらいなんだけど・・・。

「そんなこと言わないで・・・私はあなたを守りたいだけなの。」

「・・・だまれ。お前なんか何が分かる！！。」

私は彼を見つめた。

「私は・・・私はこの世界を正したいの。おかしなこの世界を！。な
んで、あなた達は・・・私達と同じなのに・・・こんなに扱いが違
うのか・・・？。おかしくて仕方がない・・・。」

見つめあっていたとき、さっきの老婆がやってきた。

「いきなさい。外へ・・・。でるのよ・・・！。」

「でも・・・。」少年はたじろいだ。

「私達の分も幸せになりなさい。・・・ラীগ。」彼は黙ったまま動かない。

「ラীগをよろしくお願いしますな・・・アーミュ様。」

老婆はお辞儀をして去って行った・・・。

「アーミュ・・・？神の使い魔の？。」彼はびっくりしたようだった。

「ただたんに私は・・・奴隷となった人達を助けているだけよ。」

私はそんなに偉くない・・・。

・・・！。彼は私の元でひざまずいた・・・。

「なんのまねですか・・・？」

「アーミユ様だったとはしらず・・・ご無礼をお許してください。」

「・・・いいえ。これは神の縁かもしれないから・・・そのようなことは・・・」

ピーーーーーーッ！！

「これにて剣大会を終わりますー・・・」会話が途切れた。

私はさっきのリーグとその仲良しのシーザを賞品として得た。

「あなた達は自由。このお金をもって、どこにでもいきなさい。」

少年達は顔を見合わせた。

「えっ?。」

私は10000シーを入れた袋を渡した。(10000シー＝100000円)

「こんな大金・・・いいの?」と遠慮がちにシーザがたずねた。

「自由に生きなさい・・・。悔やむことがないように・・・。」

・・・ずっと黙っていたリーグが口を開いた。

「ボクはリーグ。リーグ・グラシア・・・アーミユ様・・・そばにおいてください!!お願いします。」

「何を言ってるの?リーグ!!ボクと一緒に遠くにいこうよ。」

シーザが泣きそうに言った。

私は彼を見つめた。

「リーグ。私はいろいろな試練を乗り越えてきました。あなたにそれぐらいの覚悟が?。」

「・・・あなた様のためならば・・・この命。差し上げましょう・・・!。」

「そう。本気なのね・・・。いいわ。あなたを旅の仲間として歓迎します。」

シーザがムーっといった。

「ぼくもぼくもー!!。ボクシーザだよ!シーザ・ブロッサム

ヨロシク。」

「では、ラーグ・シーザ。あなた達を信頼し仲間と・・・歓迎しますよ。」

「私はアーミュと言われています。本名は、レイ・クロア。クロアでいいわ。」

二人は顔を見合わせた。

・・・

「はいっ！。クロア様！！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9706t/>

神を信じたモノ達の先には・・・

2011年10月9日07時57分発行